



第19回  
外国人留学生等  
作文コンテスト  
入賞作品集

香川県留学生等国際交流連絡協議会



## -目 次-

### 【 優 秀 賞 】

- 「コロナ終息後にしたいこと」 . . . . . p.1 ~ 2  
高松大学経営学部 Abdallah Faqieh Hamdan Hariri (インドネシア)

### 【高松キワニスクラブ会長賞】

- 「苦い経験があるからこそ、人は成長できる」 . . . . . p.3 ~ 4  
穴吹ビジネスカレッジ国際ビジネス学科 NGUYEN TRUNG HUY (ベトナム)

### 【 佳 作 】

- 「コロナ終息後にしたいこと」 . . . . . p.5 ~ 6  
高松大学経営学部 秦影 (中国)
- 「日本での経験を活かし、未来を切り開く」 . . . . . p.7 ~ 8  
徳島文理大学文学部日本文学科 WU HAO JHE (台湾)
- 「今ある大きなチャンス」 . . . . . p.9  
香川短期大学経営情報科 TRANG THI CAM GIANG (ベトナム)

### 【 審査委員特別賞 】

- 「日本の留学したのちの私の将来」 . . . . . p.10 ~ 11  
香川大学留学生センター留学生 Sasaki Zeredo Jun (ブラジル)

### 審査委員

- |          |                       |
|----------|-----------------------|
| ◆ 塩井 実香  | 香川大学 インターナショナルオフィス准教授 |
| ◆ 齊藤 学   | 四国学院大学 教授             |
| ◆ 稲井 富赴代 | 高松大学 経営学部教授           |
| ◆ 畑 ゆかり  | 穴吹学園 国際教育センター日本語教育部部長 |



## コロナ終息後にしたいこと

高松大学経営学部 Abdallah Faqieh Hamdan Hariri

2020年春、新型コロナウイルスの感染拡大により、世界中の人々の生活は一変しました。人と接触しないよう、自宅での隔離が必要となりました。楽しみにしていた私の日本留学も延期されました。日本の大学生になるはずだったのに、外国の大学で学んで、知識や経験を積もうと考えていたのに、海外に出られなくなってしまいました。新型コロナウイルスのせいとは言え、このときの悔しさは決して忘れることができません。

それからの私は、インドネシアで高松大学の授業を受けることになりました。インドネシアの大学でも経営学を専攻したので、先生から出される課題は難しくはありませんでした。しかし、私にとって最大の問題は日本語能力で、日本に行けないので、日本語が上手にならないことが一番の悩みでした。この時間は私にとって、人生の保留でした。

私の目標は何も変わっていない。変わったのは、それを実現する時間です。日本に行って日本語を勉強したい、友達と遊びに行きたいなど、やりたいことがたくさんあったのですが、それらは全て遅らせるしかありません。それでも「やるぞ!」という気持ちは常に持っています。そして、私は強く信じています。「いま一番大切なものは健康です。健康を優先させれば、あとのことはその上に乗ってくるものだ」と。

2020年12月、予定より8か月遅れて、やっと日本に来ることができました。しかし日本に来てからも、大学の授業がオンライン授業になったり、イベントが中止になったりして、期待していたような留學生活とは違います。

そして2年が経過し、社会は回復基調にあります。しかし、新型コロナウイルスがもたらした多くの不安が残ります。それでも私は、人類はこの困難な時期を乗り越えられると信じています。日本はまだ新型コロナウイルスから完全には回復していませんが、回復した暁には、日本での新しい経験が私を待っていることでしょう。

私には、新型コロナウイルスが終息したらやりたいことが三つあります。

一つめは、映画館で映画を見ることです。新型コロナウイルスによって、ごくありふれた場面で、人と一緒にいられないことがどれほど寂しいことかを思い知らされました。『アベンジャーズ/エンドゲーム』が公開されたとき、満員の映画館で見たときのことをよく思い出します。あの時の感動、人々の歓声、そして嗚咽は忘れられません。あの時のエネルギーが懐かしいです。私はただ、かつて普通だったこと——暗い部屋で他の人たちと一緒に座り、ポップコーンをほおぼりながら、映画を楽しみたいのです。

二つめは、香川県外を旅行することです。香川県に観光スポットがないと思ったことはありませんが、他の県にも行ってみたいです。新型コロナウイルスの影響で行動が制限される中で、私の一番の望みは、自由に場所を探検することでした。今いるところから遠く離れた場所に行ってみたいです。東京、大阪、広島、長崎など、日本の都市を訪れたいです。

三つめは、自分の考えを整理し、コロナウイルスで停滞した自分の人生を軌道修正するために、自分のための時間を持つということです。誰かが言っていましたが、次善の策として「自分自身の時間を過ごす」ということです。それが身体的なセルフケアであれ、精神的なセルフケアであれ、やってみるべきだと思います。

人類がパンデミックから学んだことは、人生は予測不可能なものだ、ということです。今を生きるということは、多くのことを後回しにしなければならない。コロナウイルスで先延ばしにしてきたことを全て実現するために、優先順位をつけて絶対にやりきろうと思います。

## 苦い経験があるからこそ、人は成長できる

穴吹ビジネスカレッジ国際ビジネス学科 NGUYEN TRUNG HUY

日本に来てから、もう4年以上経ちました。いつのまにかこんなに時間が流れていました。その間には苦しい闘いがあり、酸っぱくて甘い、そして、苦しくもあり、楽しくもあるという実に様々な味がそろっていて、本当にいろいろな経験をしながらここまでできました。

4年前、まったく知らない異国にやってきた私にとって、すべてが目新しいもので、これまで経験も想像もしたことがないものばかりでした。

最初のころは、一日も早く日本の生活に慣れなくてはならないと思い、家族や友達と離れた寂しさをまぎらわすために必死にアルバイトをしました。その生き方は私が希望したものではありません。その時はアルバイトしか知らなくて、そうするしかなかったのです。日本来たばかりですから、当然上司の日本語もわからないため、指示通りにできず、叱られるばかりで精神的に大きいダメージを受ける日々でした。

しかし、逆に、アルバイトを早く経験したことで、自分の日本語力が足りないことにも気づけたし、日本で働くために必要な文化も理解することができました。この経験を通して、日本語をしっかりと身につけなければならないというやる気につながりました。

今日、ここで私が皆さんに伝えたいのは、とてもシンプルなことです。日本に住む以上、日本語と時間の使い方がいかに重要であるかということです。

私は現在、穴吹ビジネスカレッジの国際ビジネス学科で、将来社会人として活躍するために必要なスキルを学んでいます。今の時間割には、「データ分析演習」、「簿記会計」、「ビジネス日本語」など一週間に8科目くらいあります。どれも将来に役立つ科目ですが、個人的には「ビジネス日本語」、「サービス・マーケティング」、「キャリアデザイン」という授業が好きです。授業で習ったことが、実際の生活で度々使えるからです。

例えば、アルバイト先だと困るのが電話対応です。以前は、お客様から電話がかかってきたときに、どう答えればいいのかわからなかったのですが、今では落ち着いて正しい敬語表現も使えるようになりました。学校では会社員に変身して、クラスメートと繰り返し練習します。しかし、単に言い方を覚えるのではなく、なぜそのように言うのか、文化的な理解をしたうえで学ぶので、早く覚えられます。そうやって学校で学んだことを、アルバイトですぐに使うと、身につくのも早いし、達成感もあるので、自信につながります。

次に、皆さんは時間についてどう思いますか。尊重していますか。

私は日本で、時間を大切にできなかったばかりに、大切なものを失った苦い経験があります。本来ならば、留学生は2年間日本語学校で日本語を学び、2年間専門学校に通い、合計4年くらいで就職するケースが多いと思います。しかし私は、日本語学校にいたころ、勉強をおろそかにしてしまったことで、日本語があまり上達せず、もう一年、日本語の応用コースに進みました。その後、卒業して、今の専門学

校に入学しましたが、2年制のコースに合格する自信がなかったので、3年制のコースに入りました。なので、合計すると6年間を使うことになります。今思うと、なぜあの時もう少し勉強を頑張らなかったのだろうと後悔してしまいます。

過去に戻れるものなら戻りたいですが、後悔しても時間は戻ってきません。そのかわり、今は過去の過ちをくり返さないように、時間を大切にして、毎日の勉強やアルバイトをしています。

今までの苦い経験で学んだことをすべて成長の糧にして、将来私は自信に満ちた表情で、香川で活躍することを約束します。



## コロナ終息後にしたいこと

高松大学経営学部 秦影

2019年12月、高松大学の海外入試に合格した私は、憧れていた日本留学の夢がかない、日本の大学生活を楽しみにしていました。しかし、新型コロナウイルスのせいで、私の夢も計画も狂ってしまいました。

2020年4月2日、私は日本に入国できないまま高松大学の1年生になりました。そして、いつになったら日本に行けるか全くわからないという不安を抱えながら、その後ずっと中国で在宅学習を受け続けるしかありませんでした。

あの時はテキストもなく、先生の講義も聞けず、先生が送ってくれた資料やインターネットで調べながら自分で勉強するしかなく、本当に大変でした。最も印象に残っているのは「簿記演習」の授業でした。毎回統計の表を作る課題が出されたのですが、簿記の知識が全くなかった私はいつも不正解で、具体的にどこがどう間違っているのかわからず、泣きながら課題に取り組んでいました。友だちもいなくて、パソコンを使って一人でする勉強は、困難なことばかりでした。あの時間は本当に忘れられません。

「日本留学を諦めようとは思わないの？」と聞かれても、あの時の私は、コロナが終息したら留学ビザを取って日本に行くことしか考えられませんでした。なぜなら、日本留学は昔からの私の夢であり、自分が決めたことだからです。

そして、今年やっと日本に来ることができました。私はそのまま3年生になりましたが、すぐに留学生の友だちができたので、大学の授業には不安を感じなくなりました。

それでも、日本人と話すときはとても緊張しました。初めてアルバイトの面接に行ったとき、店長が言っていることはわかっても、自分の言いたいことをうまく表現できませんでした。ちゃんと仕事ができるか心配でしたが、パートのおばちゃんたちが知らない言葉を説明してくれるので、すぐに仕事に慣れ、コミュニケーション能力も徐々に上がりました。優しくしてくれるおばちゃんたちにとっても感謝しています。

先月、学生研修旅行で徳島県の祖谷に行きました。日本にきてから県外に行くのも、他の国の留学生と一緒に遊ぶのも初めてだったのでとても楽しかったです。かずら橋を渡ったとき、私は高所恐怖症なので本当に怖かったのですが、みんなが助けてくれて、渡り切ることができました。初めて温泉にも入りました。きれいな景色を見ながら入る露天風呂はとても気持ちがよかったです。

日本に来て7ヶ月になりました。7ヶ月しか経っていないのに両親が恋しいです。両親も電話をするたびに「日本のコロナはいつ終息するのか。いつ帰って来るのか」と聞きます。両親は何も言いませんが、私を帰国させたいという思いが、表情ににじみ出ています。

先月、祖父母が手術を受けたと聞かされました。両親は祖父母のそばにいないため、彼らの体調をとっても心配しています。

私は今でも覚えています。父と電話で話をしていたとき、私は父の語気の中に震える声を聞くことができました。その瞬間、私は自分が成長していることに気づきました。私の心の中の父はずっと勇猛なイメージで、「父がいる限り、たとえ天が落ちても、父が私を支えてくれる」、そう思ってきました。しかし、その日私は、慌てている父を見て、「父も弱い人かもしれない。私と弟がいるから、強くならざるを得ないのだ」と思いました。

祖父と父は旅行するのが好きな人ですが、両親はずっと仕事に追われていて、祖母は体調があまりよくないので、ずっと旅行をしたことがありません。だから、コロナ終息後に私が一番したいことは、家族に日本旅行をさせてあげることです。家族に香川に遊びに来てもらい、私の大学や宿舎を見て、私がよく行くスーパーなど、私の生活のまわりの環境を見てもらいたい。彼らが私の日本での生活を知れば、もう余計な心配をしなくて済みますから。

1日目は、私がよく行くうどん屋で朝ご飯を食べて、宿舎や大学のまわりの様子を見に行きます。昼ご飯は、私が好きな焼肉食べ放題の店に行きます。午後は屋島に行き、夕日や高松の夜景を見ます。2日目は船で小豆島に行き、3日目は四国水族館と瀬戸大橋を見に行きます。1週間ほど滞在して、観光したり名物料理を食べたりして、香川の魅力を紹介してあげたいと思います。

祖父母はこれまで、自分の子供が少しでも良い生活を送ることができるようにと、一生懸命がんばってきたので、私は、彼らがもう生活のために奔走することなく、余生を楽しむことを望んでいます。ずっと田舎で暮らしている祖父母にとって、東京や大阪などの大都市はにぎやかすぎて落ち着かないでしょう。彼らが違和感を持つことなく、豊かな自然に囲まれた香川でゆったりとした時間を過ごさせてあげたいと思います。そして、私が日本に来てから体験したことや感じたことを話してあげます。きっと私の成長を心から喜んでくれることでしょう。

## 日本での経験を生かし、未来を切り開く

徳島文理大学文学部日本文学科 WU HAO JHE

私は一年前に、4年生になりました。間もなく卒業する私はよく勉強してきましたが、将来のことを考えると不安になります。大学4年の間に日本語能力検定で2級を取りましたが、正直全然日本語が喋りこなせなくて、将来のことを考えたら、「外国語専門のくせに外国語が喋れなくてどうする」と思ってしまいます。誇れる外国語能力さえ持っていない私には、どんな仕事ができるか、本当にいい仕事が見つかるか、と段々自分に自信がなくなって、そもそもどうして外国語専門にしたのかすら分からなくなってきました。

「まあ、心配いらない、なんとかなるさ」ととなりの人たちによく言われていますから、悩まずこのまま就職しようかと、時々思いますが、パソコンを開けてウェブ上の数多くの求人情報を見たら、「やはりポンコツのままですら就活できないよ」と悩んでしまいます。私は分かっています、自分に自信がないと、やりたいことも分からなくなります。悩んで悩みまくって、学生支援センターの先生に相談をかけたみたら、うちの大学は交換留学制度があると聞きました。同年生より一年遅く卒業になるとはいえ、海外留学して視野が広がり、語学力も伸びるでしょう。そこで決心した私は、一步を踏み出しました。

そしてその一步で、私の人生は大きく変わりました。

徳島文理大学に来て、私の大学時代第二幕の幕開けが大変でした。四国方言という香川県における独特のアクセントや口癖があったりし、話すスピードも早めですから、最初の一カ月は日本語のわからなさに絶望していましたが、日本人に囲まれている日々のおかげでなんとか慣れてきました。そして「聞き取り地獄」に生き残った私は、さらに読書やレポートというさまざまな勉強を繰り返すにつれて一層成長しました。学業のみならず、私のコミュニケーション力も友達付き合いをしているうちに上がりました。留学生活を送る中で部活や大学祭実行委員会の参加を通して、日本人の考え方や癖を捉えるようになってきて、日本語を喋ることも怖くなくなりました。一年前の私でしたら、日本語で日常会話するようなことは決してできるわけがないでしょう。そう思いまして、将来への不安も払拭されてきました。

この一年間に語学力はもちろん、生活力もよく身につけました。家族と離れて、讃岐市で一人暮らし始めた私は、親切な地元の人々のおかげで新しい環境への適応が順調でした。規則正しい生活も送れば、良い交友関係もあるので、私は充実した生活を送りました。もちろん、挫折経験もありました。アルバイトをしたいと思い、いくつの求人情報に応募しましたが、外国人だからという理由だけで受け入れを断られてしまいました。当時の私は諦めず、言語や国籍という壁にぶつかっても、探し続けました。嬉しいことに、とある会社が受け入れてくれることになり、アルバイトすることを叶えました。そこで困難に乗り越える根性、自分を支える自立性、新しいことへの適応力、そして異文化を受け入れる寛容性、という4つの社会人に欠かせない「武器」が私は持っていますと、今ならばはっきり言えます。さらに私はなりたい理想の社会人像の実現に近づくことができましたと、今もはっきり言えます。

充実した日々を重ねてきて、私の大学時代は間もなく終幕を終えました。香川でのいろいろな経験を通し、私は自分の潜在能力を開花させ、知らずしらずのうちに成長しました。一年前の弱気な私にひきかえ、今の私は誰にも負けない自信があって、怖がっていた将来という未知の道がもう怖くないのです。そして、これからもこの一年間に得た「武器」を生かし、自分の手で自分の望む未来を切り開きます。たとえ困難にぶつかって折れても、この宝のような一年を振り返り、また前に向きます。どんな未来であろうと、自分を信じて堂々やっていきましょう。

## 今ある大きなチャンス

香川短期大学経営情報科 TRANG THI CAM GIANG

留学生として日本に住んでいる私には、他の人と同じようにたくさんの夢や希望があります。将来的には自分のお店を開きたい。自分で営業したい。友達に負けたくない。あるいは、ただ単に自分の生活が楽になりたいとも思います。

私の親戚や周囲の人は苦勞が多い人生を過ごしたり、生活のために家族と離れて遠くの都会まで仕事のチャンスを探しに行ったりしたそうです。そんな人たちの話を聞いた時、同情の気持ちを感じていました。そして、今は私もその立場になったのです。自分の将来のために母国を離れて日本に来ました。家族とふるさとから離れると、去って行く私だけでなく残された人達も寂しくなります。お金を稼ぐことで家族にもっと幸せな生活を作ってあげたいのです。でも、1年間に1回も会えなくて本当に幸せだと思いますか？辛いと思わないでしょうか？そんな疑問を持って、自分の夢を変える事に決めました。『どうやったら、田舎に住んでいる私たちが他のところに移動せずに、家族と離れずに、仕事ができるのか』ということを考え始めました。そして、田舎の人たちに雇用を創出してあげたいと思うようになりました。

今、私が手にいれているものは文化や経済が発展した国に住んでいるというチャンスです。このチャンスで夢を実見したいと思います。私はこれまで日本に4年間住んで、たくさん新しい事を習う事ができました。社会的な知識だけではなく、人生の経験や社交について勉強できました。学校では情報ビジネスのことを勉強しながら、コンビニでアルバイトとして働いています。そこで、学校で勉強したことを直ちにアルバイトしているところで少しだけ利用しようと試しました。しかし、簡単なことではありませんでした。

人を助けてあげたい、自分の夢を実現したい、成功したい、そんな気持ちがあるなら、決心することは少なくともあるべきことです。現在大きなチャンスだと思うのは、日本で生活する中で、日本人のやり方、ビジネスの考え方、コミュニケーション、振る舞いのルールを毎日少しずつ身につけられているということです。私にとって発展した国には経済だけではなく、その国の人々も大切なのだと思いました。日本人の礼儀正しさ、エチケットがとてもいい事は海外で評価されています。このことはベトナム人が学んで変わるべきことです。日本があらゆることで質が高い国だということはインターネットで簡単に見つけられます。なにより私は毎日これを体験していますから、よく分かります。

今ベトナムは発展している国なのですが、国民の考え方は発展した国に適當ではない人が多いです。特に私のふるさとに住んでいる人達の生活の状況がなかなかよくなること理由は考え方とやり方がまだ近代化していないからだだと思います。ですから、日本のサービスをベトナムに持って帰ることに決心しました。絶対に簡単はないことを知っていますが、日本にいるうちに日本人からベトナム人がまだできてないことを全力で勉強します。そして、ベトナム、特に田舎の人々に日本で勉強できた事を伝えて、みんなと一緒に一步一步ずつ生活を改善して、国が発展するように頑張ります。

## 日本に留学したのちの私の将来

香川大学留学生センター留学生 Sasaki Zeredo Jun

留学は、人生を変える最も大きな経験の1つである。グローバルなしやをやしな  
い、新しい考え方、文化、ちしきの分野にふれることができる。今年、香川県に1  
年間住むきかいをえた。まだ2ヶ月しか経っていないが、この経験は私に自分の将  
来をどうするかを考え方を与えてくれた。

日本での最初の経験は2015年の岐阜県であった。当時わずか12歳だった私は、  
日本の中学校で短期間勉強する経験をした。当時、私は日本語を話せなかったが、  
この経験が最終的に日本語を勉強するきっかけになった。要するに、留学は人生を  
変えるユニークな経験につながるがよくある。

しかし、香川での経験は岐阜とは異なった。私の専攻はグラフィックデザインで  
ある。将来は、デザイン事務所やマーケティング部門でじつ経験をつみたいと考  
えていた。最終的には、安定した仕事につくことが、個人として成長し、社会で役割  
を果たすためのさいぜんの行動であるとしんでいた。しかし、日本文化を学ぶ機  
会は、デザイナーとしての私にとって魅力的だった。それは、私の国の外部の視点  
だけでなく、将来のデザインプロジェクトへの洞察も得られると思っていたから  
である。さらに、私は日本語を6年間勉強していたので、日本語学習のスピード  
が上がると思った。

私の将来の計画を変えた最初の経験は、私が出会った人々からのものだった。日  
本人学生との交流だけでなく、他の留学生と交流する機会もあった。さまざまな国  
のことを知ることで、海外でもっと勉強したいという気持ちが強くなったと思う。  
その上、私が出会った多くの留学生は、研究を行っているか、博士号を取得してい  
たので、私にも同じことをするようにすすめた。

次に、日本に住むことで、自分の世界観をさいこうすることができた。これは、  
自分の行動にぎもんを持たなければ、何かが正しいかまちがっているかを知るのが  
難しい場合があるためである。私の国では普通と考えられていることが、別の国  
ではまったく異なる意味を持つことがある。このような理由から、日本の考え方の  
いくつかの要素を自分のライフスタイルに取り入れることは、私が人間として成長  
するのに役立つだけでなく、私の国の人たちにも同じことをするように促すこと  
になると思う。さらに、自分の国に対する外部のしてんは、自分の国をかいぜんす  
るための市民としての自分の重要性をにんしきするのに役立った。会社で働くことは  
私の国のたんき的な成長に役立つかもしれないが、海外で研究を行い、私の国のイ  
メージを向上させることは、市民としてのやくわりを果たすためのよりこうりつ  
かつこうか的な方法であることをにんしきしている。

最後に、留学は私のりれきしよの素晴らしい1項目になるだろう。日本に滞在し  
たことで、チームワーク、自己認識、コミュニケーション スキルを磨くことがで  
きた。また、国際的なかんきょうで働くというちよくせつ的な経験は、留学によっ  
てのみ得ることができる。

香川での経験により、日本や他の場所についてもっと知りたいという気持ちが強

くなった。帰国後の主な目標は大学卒業であるが、日本と香川での経験を活かして海外で学ぶ機会を探したいと思う。さらに、ここで過ごした時間はすでに、日常生活に日本文化を取り入れたいという気持ちにさせてくれた。香川で過ごす時間が、母国、日本、さらには世界の役に立てることを願っている。



第19回 外国人留学生等作文コンテスト  
入賞作品集

編集・発行 香川県留学生等国際交流連絡協議会

【発行】令和5年1月

【問合先】香川大学国際課

〒760-8521香川県高松市幸町1番1号

TEL 087-832-1148

FAX 087-832-1192